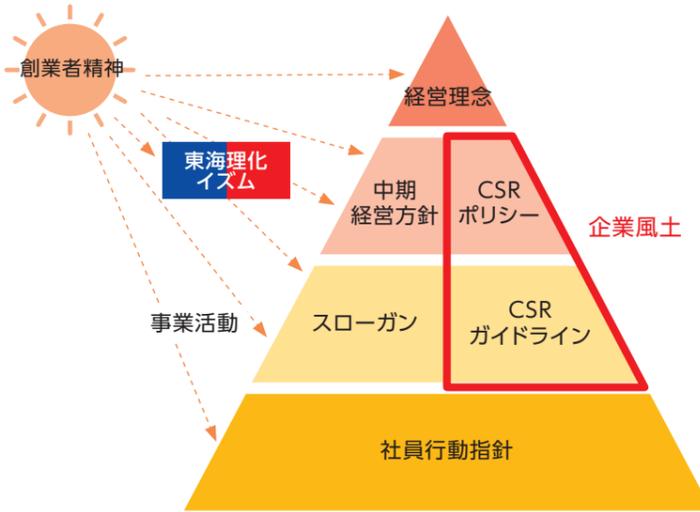


当社は創業以来「人が手掛けないことこそやる」精神のもと、お客さまのニーズに応える商品づくりに取り組んでまいりました。多くの社会課題を抱える近年、私たちが果たすべき社会的責任は重要性を増してきました。そのような中、当社では、ステークホルダーの皆さまとの対話を深め、事業活動を通じて社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献できるようつとめていきます。

CSRポリシーとCSRガイドラインの制定

当社のCSRの基本的な考え方を共有するために社会の要請、経営理念を基にしてCSRポリシーを制定し、CSRポリシーの解説書としてCSRガイドラインを発行しました。



CSRポリシー

東海理化グループは、経営理念にある法と倫理を遵守し、自然・地域と共生する健全な事業活動を通じて、全てのステークホルダーと共に、持続可能な社会の実現に貢献します。

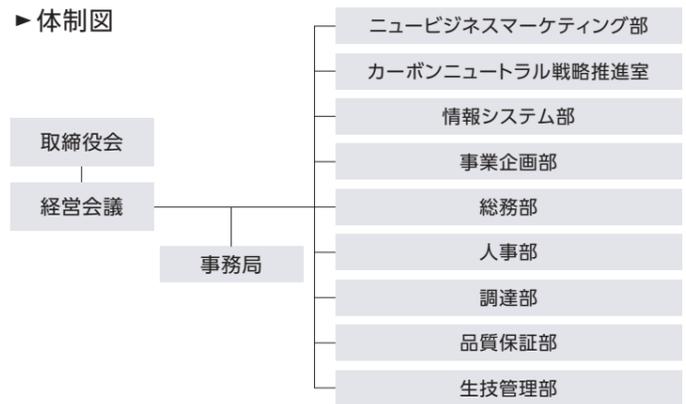
CSRガイドライン

- ① 法と倫理の遵守
- ② 人権の尊重
- ③ 豊かな社会づくりへの貢献
- ④ 地域社会への貢献と社会参画
- ⑤ 働きやすい職場づくり
- ⑥ 自然環境の保護
- ⑦ 情報開示
- ⑧ リスク管理
- ⑨ 取り組み事項の実践

CSR推進体制

マテリアリティ策定のプロセスの中で、社会課題に関わる部署を特定し、担当範囲を協議のうえ決定しました。総務部が事務局を担当し、方針管理と経営陣への報告を執り行います。また、CSR方針は経営方針と別にあるのではなく、統合することにより全社でサステナビリティの推進を図っています。

▶ 体制図



ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダー	コミュニケーション
社員・家族	・上司との面談 ・コンプライアンスの相談窓口 ・社内報 他
お客様	・展示会 ・社員対応(営業活動) ・お問い合わせ窓口 他
株主・投資家	・株主総会 ・決算説明会 ・プレスリリース 他
仕入先	・調達方針説明会 ・協力会活動 他
地域社会	・地域懇談会 ・地域への貢献活動 他

マテリアリティ策定プロセス

当社グループが取り組むべき社会課題は何かを、ステークホルダーの関心度と、当社の重要度を勘案して、昨年12月に15項目のマテリアリティ(重要課題)として決めました。事業を通じての課題解決として3項目、事業を支える基盤活動として12項目あります。

STEP1

国際的ガイドライン※項目の内部評価 (当社にとっての重要度で層別)

GRI36項目とSDGs1項目、合計37項目について当社にとっての重要度の観点から社内関係部署にヒアリングし点数化(3段階評価)

※ISO26000(2010年制定のCSRのガイダンス規格)、SDGs(持続可能な開発目標2015年国連採択)、GRIスタンダード(2016年制定の統合レポート記入項目のガイドライン)

STEP2

国際的ガイドライン項目の外部評価 (ステークホルダーの関心度で層別)

外部評価機関が着目する課題とベンチマーク4社が重要としている項目の会社数を加算し、3段階に層別(第三者機関にて評価)

STEP3

重要課題(マテリアリティ)の抽出

当社にとっての重要度とステークホルダーの関心度が「特に高い領域」に位置する項目を最重要視すべき課題と判定。

STEP4

重要課題(マテリアリティ)の特定

5つの重要テーマと重要課題15項目を決定。

事業活動を通じての課題解決

革新的な製品開発を通じて社会課題を解決する
社会課題解決型商品開発

顧客の安心安全を支える
顧客の安全・品質保証
情報セキュリティの推進(コネクテッド製品)

働く意欲を高め、成長と社会への貢献を促す
労働安全衛生
人材育成
多様性(ダイバーシティ)

環境への負荷を低減する
気候変動への対応
環境汚染の予防
持続可能な資源利用
生物多様性への取り組み

ガバナンスの強化とサプライチェーン全体での公正な取引の実現
コーポレートガバナンス
全社CSR体制の再構築
腐敗防止
反競争的行為
サプライチェーンへのCSR浸透

事業を支える基盤活動